



いとう きよし
伊藤 潔 教授

～ 災害産婦人科学分野 ～

講義題目

災害を、女性のがんから考える

【略 歴】

1986年 3月 東北大学医学部卒業	1999年 1月 東北大学医学部附属病院助手
1986年 6月 東北大学医学部附属病院研修医	2000年10月 東北大学医学部附属病院講師
1986年 7月 財団法人太田綜合病院附属太田西ノ内病院	2002年 4月 東北大学大学院医学系研究科助教授
1989年11月 東北大学医学部附属病院	2012年 4月 東北大学災害科学国際研究所教授
1991年10月 東北大学医学部附属病院助手	2014年 4月 東北大学災害科学国際研究所所長補佐 (併任 ～2017年3月)
1992年 4月 米国ジョージワシントン大学客員研究員	2017年 4月 東北大学災害科学国際研究所副研究所長 (併任 ～2020年3月)
1994年 4月 米国ヴァージニア医科大学客員研究員	2023年 3月 退職
1994年 8月 東北大学医学部附属病院助手 (復職)	
1996年 4月 八戸市立市民病院	
1997年 4月 十和田市立中央病院	

【研究業績等の紹介】

伊藤潔教授は、1986年に東北大学医学部を卒業され、東北大学医学部産婦人科に入局後、研鑽を積み、米国への留学を経て、2002年より東北大学医学系研究科の准教授に就任されました。その後、2011年の東日本大震災からの経験と教訓を元に、災害科学に関する最先端の研究を進めることを目的として、2012年に設立された東北大学災害科学国際研究所の発足と同時に、災害産婦人科学分野の教授(医学系研究科の教授を兼任)および災害医学研究部門の部門長となられ、次いで、所長補佐、副研究所長として、研究所全体の運営に携わりながら、研究活動を精力的に進めてられました。また、東北大学世界トップレベル研究拠点4領域の一つ「災害科学研究拠点」での副研究拠点長としても活動なさいました。

伊藤教授は、産婦人科在籍時より一貫して子宮がんと性ホルモンに関する研究に邁進され、その業績により平成17年度「東北大学医学部奨学賞金賞」を授与されています。また災害研の教授に就任後は、研究の幅を広げ、災害とそれに起因するストレスが性ホルモンを介してどのように女

性のがんの発生進展に関与するか、を検討してきました。2016年には、弘美医学研究助成基金を授与され、2017年にはホルモンと癌研究の最高峰誌の一つである *Endocrine-Related Cancer* にて Highly Read Author 2016 賞を受賞しています。また、2020年に第25回日本生殖内分泌学会の会長を務めるとともに、2019年からは、ホルモンと癌研究会の理事長を担っています。

その一方で、日本でのがん検診の牽引的立場を堅持している公益財団法人宮城県対がん協会で細胞診センター長（兼任）を長年にわたり務めるなど、宮城県のみならず日本全般での子宮がん検診に関わる実践的な研究を行い、2017年には第26回日本婦人科がん検診学会、2022年には第61回日本臨床細胞学会秋期大会を、会長として執り行いました。「東日本大震災が宮城県での婦人科がん検診体制や受診率に及ぼした影響の解析」に関する研究は、2020年に PLOS ONE に掲載するとともにプレスリリースを行い、国内外の記事（The ASCO Post, 日本経済新聞など）で取上げられ、反響を呼びました。現在は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大と長期化が、がん検診にどのような影響を及ぼすかを多角的に検討なさっています。